

豊岡まちづくり推進協議会 会議録 令和6年度 第2回

会議概要	
日時	令和6年12月5日（木曜日） 午後6時00分～午後8時15分
場所	東部まちづくりセンター コミュニティスペース
出席者	委員14名（会長，副会長以下50音順） 高嶋会長，石川副会長，宇野委員，大田委員，北川委員，北島委員，小林委員，佐竹委員，清野委員，瀧本委員，千葉委員，長谷委員，宝住委員，森委員 （欠席者 今野委員） オブザーバー 高橋 地域まるごと支援員 事務局 地域活動推進課 岩崎次長 東部まちづくりセンター 鈴木所長，高尾 その他 愛宕公民館 角谷館長 社会教育課 小島主幹，山崎主査
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の数	1名
会議資料	次第 資料1 豊岡まちづくり推進協議会委員名簿（令和6年9月27日現在） 資料2 地域まちづくり推進協議会の在り方について 資料3-1 令和6年度豊岡地域で実施される課題解決の取組 資料3-2 事業報告関係資料1 （豊岡まちづくりウォーキング事業，愛あい（子どもの居場所）づくり事業） 資料3-3 事業報告関係資料2 （地域ふれかつマップ作成事業，豊岡消防団活性化事業） 資料3-4 事業報告関係資料3 （地域学校パートナー事業）

議事の内容

1 開会

開会し、事務局より欠席者及び遅れて出席予定の委員の報告、当日使用する資料の確認があった。

改選後、協議会に初めて出席する委員の紹介があった。

2 協議事項

(1) 地域まちづくり推進協議会の在り方について

地域活動推進課 岩崎次長より、資料2「地域まちづくり推進協議会の在り方について」に沿って説明があった。質問等は次のとおり。

(委員)

まち協の知名度の向上させるべきとあるが、今後どのような方法を考えているか。

(地域活動推進課)

今年度から、「くらしのアプリ」の活用について進めているが、その中で毎月「地域のチカラ」の月間版を載せており、各地域15カ所で実行委員会等により実施されているされさまざまな事業や、協議会の開催についても掲載していることから、これからは目に触れる機会を増やしていきたい。また、実行委員会においても、まち協の名前が見えにくいことも解消できないか、検討していきたい。

(委員)

アプリは年配は見る機会がない。市民広報などで年配の方も目に触れる方法でPRをした方がよいのではないかと。まち協って何と聞かれることが多い。全体の年代に広めるために、市民広報にまち協ってこういうことをやっていますよ、地域に根ざしていますよ、というようなことを載せてほしい。

(会長)

知名度をあげるのにアプリも有効であるのはわかるが年配の人にもわかりやすくなれば、市民広報にまち協をPRする方法はとれないかという意見だった。即答はできないだろうが、こういう意見があったということ認識してほしい。

アプリは町内会で活動などで取り組んでもらっているが、それらの事実を把握しているのか。

(地域活動推進課)

ダウンロードが8,000人程度しかいないので課題がある。町内会では1,213町内会のうち、52町内会がアプリを活用していると報告は来ているが、実際どのように活用されているかはこれ

から情報収集を進めていく。

(委員)

年配者が会長をやるとなかなかそういうところまで手が届かない。アプリもいいが、その他の方法も考えていただきたい。

(2) 豊岡地域のまちづくりの検討と推進について

ア 令和6年度に豊岡地域で実施される課題解決の取組について

イ 豊岡まちづくり推進プログラムについて

- ・事務局より豊岡まちづくり推進プログラムの内容と、今年度の更新に関わる方向性について説明があった。
- ・豊岡まちづくり推進プログラムの説明と並行し、資料3-1, 資料3-2, 資料3-3, 資料3-4を用い、豊岡地域で実施された課題解決の取組について、事務局及び担当実行委員から報告があった。質問等は特に無かった。

(3) その他

【事務局】

令和5年度第2回豊岡まちづくり推進協議会で実施したグループワークで、「目指す地域の姿」や「解決すべき課題・問題点」などについて協議した。その内容も加味し、豊岡地域の将来像を想像しながら、まちづくりに関わる「団体」や「人」の可能性について、意見交換を行っていただきたい。

・進行は、協議の結果、豊岡地域包括支援センター 森センター長が行う事となった。発言された意見は次のとおり。

【委員】

・2040～2050年に旭川市の人口が大幅に減少すると言われており、そのことを踏まえて地域のことを考えることが大切。

・病院の廃院や商店・飲食店の閉店などの状況を受け、これから豊岡地域で生活する人のために何を残せるかを考えなければならない。そんな中でも、近所で新しい住宅が4件建つなど、豊岡は住みやすい地域であるとの意見もある。そういう方々を巻き込んで活動できれば良いと思う。

【委員】

・自分が会長を務めている町内会では、会長を退任する意向を示しても、解散という考えにはならず、どうかして組織を維持しようと考えており、結果、若い方が町内会長を引き受けてくれることとなった。組織の継続も残った人達が考えるべきだと感じた。

・市民委員会会長の後任がないので困っている。組織を存続するかしないかの話まで出ており、アンケートをとり今後どう運営していくかを考えている。

・学校への協力要請については、地域の学校から市民委員会や町内会などに声をかけてもらえると思うことができるし、予算もつけることができるので、学校から声をかけてほしい。市がどう関わっていくかが、今後の課題。

【委員】

・町内会役員の後任探しは大変。労働者年齢の高齢化や働き方改革で、民生委員についても次の世代に繋げていくことは難しい状況。意識改革が大事。

【委員】

・子育て世代・令和世代は「楽しいことがしたい」と考える人が多く、そんな町内会だったら参加したいと思っている。それができている町内会は栄えているし、役員選びも困らない。昭和世代は「町内会はこういうものだ」という固定観念があるので、様々な考えを持つ世代とのコミュニケーションや意見交換が大事だと思う。

【委員】

・昭和の古き良きものを残すのも大事だと思う。「盆踊り・花火大会」など昔ながらの行事を復活できるようにするのも一つ。アンケートで町内会の意見を聞くということも大事。行事で集まると町内住民の顔がわかるようになる。深刻に考えるより明るい視点で物事を考えたいと思う。

【委員】

・意見交換ができる場に、校長・教頭・PTAなどの学校関係者に参加してもらい、話し合いができれば良いと思う。

【委員】

・自分はPTA会長として学校行事に参加しているが、活動が成り立たない状況。子ども達のためにできることを考えたいが、今の保護者が忙しくてなかなか活動できない。みんなで協力しないと上手く回らないという事を研修会で学んだ。一人一人の意識改革が大事だと思う。

【委員】

・世の中が変わってきていることに対して、日々の運営をどの学校も必死に考えている。運動会、学習発表会や参観日などは学校によって違う形をとっている。コロナを経て前の方がよかったと戻すこともあるし、変わったいい面もある。

・何度も地域の方が学校に足を運んでくれたことがありがたかった。

【委員】

・登校時の見守りについては、当番制にすることによって毎日実施できたのではないと思う。近所で事故があったが、その時に大人が周りにいたら事故が防げたのではないかと感じる。

【委員】

・自分が住んでいる地域の町内会は解散しているが、隣近所の付き合いは大事だと思う。女性の一人暮らしが多いので、つながりを持っていくために、封書などで連絡事項を伝えている。「小さなつながり」から「まちづくり」につなげていくのが大事。

【委員】

・商店街の組織も高齢化が進み、結局解散となり今は任意の団体になった。町内会も戸数が少なく若い人も数えるほどしかいない。町内会に誘っても入ってくれない。また、親が亡くなったら町内会を脱退しまう状況。

【委員】

・近所の鍵っ子が鍵を忘れて自宅前で待っている姿を見た。その時に、近所が横のつながりをもっていたら、子どもから近所に声をかけられたと思う。そのつながりづくりのためにも、町内会の存在は大事。

【会長】

各組織の役員について、長年勤めている者が、自分がやらないといけないう先入観で考えるのではなく、思い切ってやめるということになれば、それなりに組織は動くという事例は参考になった。同じ者が長期にわたり役員を続けることが良いことかどうか、皆様にも考えていただきたい。

今日のような意見を参考に、今後の活動にいかしてけたらと思う。

3 その他

【事務局】（事務連絡）

- ・豊岡まちづくり推進プログラムの改訂作業の流れについて
- ・実行委員会の日程調整について
- ・次回（第3回）協議会日程について

4 閉会